

# キャンパスから

小樽商大  
松家仁教授

3月は卒業の季節です。今年はいくつかの大学や学校で卒業式が中止となり、大変残念でした。ところで、定年を迎え大学を去っていく教員にとって、卒業式と同様に重要なのが、最後の授業、つまり最終講義です。1月末から2月にかけて行うのが通例で、本年度も、本学の数人の先生がこの儀式に臨みました。

## 人柄表れる最終講義



山本先生の最終講義の様子

でなく卒業生や教員たちも参加します。それゆえ高齢の方が目立つ教室で、同僚が山本先生の経歴を紹介した後、学長のあいさつに続き、講義が始まりました。

タイトルは「経済学のおもしろさ」。電力の固定価格買い取り制度などを例に、経済学に関する考えを

まとめながら、自らの研究人生のさまざまなエピソードを語るという内容でした。山本先生は本学卒です。50年近く前に学生として受けた小樽の経済学の授業を振り返り、昔の先生方の経済学に対する真摯な態度や、英語の授業の厳しさを

紹介しました。寮の光熱費不払い運動や、留学先の米国での体験など、とても興味深い話がうかがえました。一般に大学教員は、他の先生方の授業を聞くことはありません。話し方やスタイルの使い方など授業の方法についても、経験豊富な山本先生ならではの配慮が感じられ、学ぶ点が多くありました。

小樽で研究と教育に力を注いだ約35年間の教員生活について、先生は同僚や卒業生、学生たちへの謝辞の言葉で講義を締めくくりました。1時間以上、真剣に耳を傾けた参加者に囲まれ、花束贈呈を受ける姿に、研究者・教育者として、先生が深い信頼と敬愛を集めてきたことを改めて強く感じました。

私は、経済学科の同僚で、

親しい間柄の山本賢司先生の最終講義に参加しました。最終講義には学生だけ